

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K04603

研究課題名（和文）仮想通貨と地域・補完通貨のメディア的特性の解明

研究課題名（英文）A Study of media characterization of virtual Currencies and community and Complementary Currencies

研究代表者

吉田 昌幸 (Yoshida, Masayuki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：90533513

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、（1）デジタル地域通貨の発行組織はアナログに比べて経済環境の充実を重視し、効率的で公正な取引をもたらすという自己評価を有していること、（2）利用者はデジタル地域通貨を効率的・利便的なものと見なし経済活性化をもたらすものであると評価していること、そしてアナログ地域通貨を利便性に劣るがコミュニティ活性化をもたらすものとして評価していることが明らかとなった。これらの成果を通じて、デジタル地域通貨の持続的流通メカニズムを「使用感」という点に着目して解明していくという新たな課題を見いだすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、地域通貨のデジタル化が進み、発行組織の属性や利用者の行動が変容しつつあるなかで、地域通貨それ自体がどのように変容していくのかについて、地域通貨の持つメディアとしての側面から考える上で重要な視点を提供している。それゆえ、地域通貨発行組織が重視する理念についての質問紙調査や地域通貨の利用者の行動を考察するためのゲーミング・シミュレーションの分析などの研究成果を出しており、地域通貨がデジタル化していく中で発行組織や利用者がどのような変容を遂げていくのかについて示している。

研究成果の概要（英文）：In this study we revealed that (1) the issuance organizations of digital community currencies have a value that enhance the economic environment and a self-evaluation that bring about more efficient and fair transactions compared to analog community currency issuers (2) users view digital community currencies as efficient and convenient and evaluate them as bringing about economic revitalization, and analog community currencies are evaluated as bringing about community revitalization, although they are not as convenient. Through these results, we found a new challenge in clarifying the sustainable circulation mechanism of digital community currencies from the viewpoint of "usability."

研究分野：進化経済学

キーワード：地域通貨 デジタル化 ゲーミング・シミュレーション 質問紙調査

1. 研究開始当初の背景

西部(2013)は、地域・補完通貨をコミュニティの経済活動を活性化する経済メディアとしてだけでなく、コミュニティのメンバーが共有する価値・関心・倫理を表現し伝達する社会・文化メディアとしての側面も持つ「統合的コミュニケーション・メディア」として位置づけている。これによれば、地域・補完通貨は地域や組織、集団の関心や価値、倫理の固有性を保持するメディアとして位置づけられる。また、その匿名性や安全性、スケール性に加えて分散発行を可能とするブロックチェーン技術を活用する仮想通貨は、投機対象としての価値変動といった問題点は指摘されているが、現在様々な企業や銀行が独自の経済圏の形成・保持を目的に発行が試みられており、これも法定通貨とは異なる価値・関心・倫理を表現・伝達するメディアとしてとらえることができる。これら新たな通貨のメディア的特性の解明は現実の制度設計上の課題やその解決手法の開発において求められる段階に達しており、より実証的・実験的手法での研究が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、地域・補完通貨、仮想通貨の利用者がどのような価値・関心・倫理を表現・伝達するメディアとして重視するのかを実験的手法を使って明らかにし、これら通貨の発行者が重視する価値・関心・倫理と比較することで、地域・補完通貨や仮想通貨の持続的活用条件を解明する。

3. 研究の方法

本研究では、地域通貨の発行者側と利用者側双方がどのような価値・関心・倫理の下で地域通貨を発行・利用しているのかについて検討するために、文献調査やインタビュー調査という実証的手法と、ゲーミング・シミュレーションという実験的手法を用いた。なお、研究機関中に発生した新型コロナウイルスの発生に伴う移動規制のため、対象をデジタル地域通貨とアナログ地域通貨に限定した。

4. 研究成果

(1) 地域通貨の発行組織による地域通貨像

地域通貨の発行組織がどのような価値・関心・倫理を表現・伝達するメディアとして見ていたかについては、主に以下の二つの成果が出ている。

Kobayashi, S, Miyazaki, Y and Yoshida, M (2020) 'Historical transition of community currencies in Japan' *International Journal of Community Currency Research Volume 24 (Winter 2020) 1-10*.

この論文は日本における地域通貨発行組織の実態を確認するために行った文献調査を基にした分析結果である。具体的には、日本で2016年までに発行されてきた地域通貨792の地域通貨を発行形態別、発行目的別に分類を行い、その発行状況の推移をみた。そこからは、(1)日本の地域通貨発行団体は、市民活動の活性化を志向する軸と環境を志向する軸によって5つのクラスタに分類できること、(2)2000年代初頭の地域通貨ブームの時期には2つの軸の交点周辺に位置づけられる地域経済とコミュニティの活性化を図るクラスタの地域通貨の新規発行が最も多かったが、2010年代からは環境問題の解決と地域経済の活性化を図るクラスタの地域通貨の

新規発行が最も多くなった。(2)の結果は、「木の駅プロジェクト」による地域通貨循環のフォーマットが広く普及したことに由来している。

Yoshida, M, Kobayashi, S, and Miyazaki, Y (2021) 'Relationship Between A Community Currency Issuance Organization's Philosophy and Its Issuance Form: A Japanese Case Study' International Journal of Community Currency Research Volume 25 (Issue 1) 1-15.

この論文は、117の日本の地域通貨発行組織に対する質問紙調査をもとにした分析を行っている。そこでは、回答した地域通貨発行組織を経済環境の充実と社会環境の充実という発行理念に基づき4つのクラスタに分類することができ、それらのクラスタごとに自ら発行した地域通貨に対する自己評価を「多様な個人を受け入れるつながりの形成」、「自由で多様な社会の実現」、「公正で効率的な取引の実現」という3つの要素から比較を行った。また、発行形態の違いとしてアナログとデジタルで比較を行った結果、デジタル地域通貨の発行組織はアナログに比べて経済環境の充実を重視し、効率的で公正な取引をもたらすという自己評価を有していることが明らかとなった。

(2) 利用者が形成する地域通貨像

地域通貨の利用者がどのような価値・関心・倫理を表現・伝達するメディアとして見ていたかについては、主に以下の成果が出ている。

小林重人・吉田昌幸(2021)「地域通貨の発行形態の違いに対する利用者の印象と評価：ゲーミング・シミュレーションを用いたアナログ地域通貨とデジタル地域通貨の比較分析」『経済社会学会年報』経済社会学会 第43号 59-71ページ。

この論文は、ゲーミング・シミュレーションを用いて地域通貨の利用体験をした参加者が異なる地域通貨の形態をどのように評価するのかを分析したものである。それによれば、参加者はデジタル地域通貨を地域経済を活性化させやすいものとして、アナログ地域通貨をコミュニティを活性化させやすいものとして評価していることが分かった。その背景には、デジタル地域通貨を効率的で利便性のあるものとして評価している一方で、アナログ地域通貨の手間のかかる取引がコミュニティの活性化につながるものとみなしていることも明らかとなった。

(3) メディアとしての地域通貨の変容

本研究は、地域通貨のデジタル化が進み、以前のアナログ地域通貨とは発行組織や利用者が変容しつつあるなかで、地域通貨それ自体がどのように変容していくのかについて、地域通貨の持つメディアとしての側面から考える上で重要な視点を提供している。具体的には、地域通貨のデジタル化に伴う決済面での効率化や利便性の向上の一方で、取引に伴うコミュニケーションが単調化していき、これまでアナログ地域通貨が有していた地域通貨支払い時に伴っていた一見すると面倒なコミュニケーションがコミュニティの活性化には求められている。地域通貨は利用していくことでコミュニティに対して何らかの貢献をもたらす仕組みを内部に持っている。その貢献を利用者がフィードバックとして認識できていることが地域通貨の持続的な流通の一つのカギであるが、効率的なデジタル地域通貨がどこまでこのようなフィードバックを感じることができるのだろうか。デジタル地域通貨の持続的流通の条件として改めて通貨の「使用感」

に着目して解明していくという新たな課題を見いだすことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Yoshida, M, Kobayashi, S, and Miyazaki, Y	4. 巻 25
2. 論文標題 Relationship Between A Community Currency Issuance Organization 's Philosophy and Its Issuance Form: A Japanese Case Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Community Currency Research	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15133/j.ijccr.2021.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林重人、吉田昌幸	4. 巻 43
2. 論文標題 地域通貨の発行形態の違いに対する利用者の印象と評価：ゲーミング・シミュレーションを用いたアナログ地域通貨とデジタル地域通貨の比較分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済社会学会年報	6. 最初と最後の頁 59-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, S, Miyazaki, Y and Yoshida, M	4. 巻 24
2. 論文標題 Historical transition of community currencies in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Community Currency Research	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15133/j.ijccr.2020.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 吉田昌幸, 小林重人, 宮崎義久
2. 発表標題 地域通貨によって形成される地域通貨像の差異
3. 学会等名 進化経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田昌幸, 小林重人, 宮崎義久
2. 発表標題 利用者による異なる地域通貨形態の評価について：ゲーミング・シミュレーションを用いた分析
3. 学会等名 経済社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林重人, 吉田昌幸
2. 発表標題 アナログ地域通貨とデジタル地域通貨の発行形態に対する印象と評価の差異；ゲーミング・シミュレーションによる検討
3. 学会等名 進化経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田昌幸, 小林重人, 宮崎義久
2. 発表標題 理念と発行形態の関係性から見る日本の地域通貨発行組織の比較分析
3. 学会等名 進化経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masayuki YOSHIDA, Shigeto KOBAYASHI, Yoshihisa Miyazaki
2. 発表標題 Relationship between community currency issuance organization 's philosophy and its issuance form: A Japanese case study
3. 学会等名 5th Biennial RAMICS International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masayuki YOSHIDA, Shigeto KOBAYASHI
2. 発表標題 A comparative study of the behavior and evaluation of analog and digital community currency: Research using gaming simulation
3. 学会等名 50th ISAGA Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masayuki YOSHIDA, Shigeto KOBAYASHI
2. 発表標題 Gaming simulation analysis on the user selection of community currency
3. 学会等名 5th Biennial RAMICS International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎義久
2. 発表標題 大恐慌期における欧州とアメリカ合衆国の貨幣改革運動
3. 学会等名 5th Biennial RAMICS International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田昌幸, 小林重人, 宮崎義久
2. 発表標題 ミクロ・メゾ・マクロループの枠組みでとらえる地域通貨の進化
3. 学会等名 第23回進化経済学会 名古屋工業大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤池 敬, 小林 重人, 橋本 敬
2. 発表標題 デジタル通貨によるキャッシュレス化がもたらす主体性の変化に関する技術哲学的検討
3. 学会等名 第23回進化経済学会 名古屋工業大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林重人
2. 発表標題 実験室実験に向けたQRコードを用いた電子地域通貨の開発
3. 学会等名 進化経済学会北海道東北部会(春期部会)小樽商科大学札幌サテライト
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮崎義久
2. 発表標題 北海道小樽市における電子地域通貨の社会実験 域内経済循環の構築に向けた現状と課題
3. 学会等名 進化経済学会北海道東北部会(春期部会)小樽商科大学札幌サテライト
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林重人、宮崎義久
2. 発表標題 ネットワーク分析を活用した電子地域通貨の流通デザイン - 小樽の電子地域通貨TARCAの事例 -
3. 学会等名 地域活性学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤池 敬, 小林 重人, 橋本 敬
2. 発表標題 デジタル決済がもたらす人間と貨幣の主客に関する技術哲学的検討
3. 学会等名 5th Biennial RAMICS International Congress in Japan, Hida-Takayama (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujiwara, M. & Kobayashi, S
2. 発表標題 Development of Digital Community Currency for Enhancing Contribution Consciousness to Local Community
3. 学会等名 5th Biennial RAMICS International Congress in Japan, Hida-Takayama (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 西部忠, 草郷孝好, 吉地望, 吉田昌幸	4. 発行年 2018年
2. 出版社 専修大学出版局	5. 総ページ数 64
3. 書名 苫前町地域通貨流通実験(第1次・第2次), 地域通貨によるコミュニティ・ドック第3章, 94-158ページ	

1. 著者名 西部忠, 栗田健一, 宮崎義久, 吉地望, 草郷孝好	4. 発行年 2018年
2. 出版社 専修大学出版会	5. 総ページ数 30
3. 書名 蕪崎市・北杜市地域通貨「アクア」, 地域通貨におけるコミュニティ・ドック第4章, 159-188ページ	

1. 著者名 小林 重人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 専修大学出版会	5. 総ページ数 11
3. 書名 更別村公益通貨「サラリ」 - アンケート調査（2011年12月）による「貨幣意識」の分析，地域通貨によるコミュニティ・ドック第5章第6節，212-222ページ	

1. 著者名 小林 重人，橋本 敬，西部 忠	4. 発行年 2018年
2. 出版社 専修大学出版会	5. 総ページ数 20
3. 書名 ブラジル・フォルタレザの「パルマス」：制度生態系としてのコミュニティバンクと住民組織，地域通貨によるコミュニティ・ドック第6章，226-245ページ	

1. 著者名 Shigeto Kobayashi, Takashi Hashimoto, Ken-ichi Kurita, Makoto Nishibe	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 19
3. 書名 Relationship between People's Money Consciousness and Circulation of Community Currency, Monetary Plurality in Local, Regional and Global Economies, 224 - 242	

1. 著者名 Miyazaki Yoshihisa, Ken-ichi Kurita	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 14
3. 書名 Community currency and sustainable development in hilly and mountainous areas: A case study of forest volunteer activities in Japan, Monetary Plurality in Local, Regional and Global Economies, 188-201	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小林 重人 (Kobayashi Shigeto) (20610059)	札幌市立大学・デザイン学部・准教授 (20105)	
研究 分 担 者	宮崎 義久 (Miyazaki Yoshihisa) (60633831)	仙台高等専門学校・総合工学科・准教授 (51303)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
5th Biennial RAMICS International Congress	2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関